

教 育 研 究 業 績 書

年 月 日

氏名

印

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		特記事項なし。
2 作成した教科書、教材		特記事項なし。
3 当該教員の教育上の能力に関する大学の評価		特記事項なし。
4 その他		特記事項なし。
職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
1 資格		
1) 小学校教諭一種免許	2012年3月	
2) 中学校教諭一種免許状	2012年3月	
3) 高等学校教諭一種免許状	2012年3月	
2 特許等		特記事項なし。
3 その他		特記事項なし。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【学術論文】 1) 東京高等師範学校在学中における石森延男の活動	単著	2016年3月	国語教育史学会『国語教育史研究』第16号、31-39頁。	国語教育者・石森延男をめぐる研究の出発点として、彼が東京高等師範学校でなにを学んだのかについて、同校の教育課程内/外の両側面から検討した。
2) 国定国語教科書編纂過程にみる国語教育史上における石森延男の位置	単著	2017年8月	日本教育史研究会『日本教育史研究』第36号、64-87頁。	戦前・戦中に国定国語教科書の編纂に関与したにもかかわらず、そうした教育理念を克服して再出発した（はずの）戦後の国語教育を先導する役割をも担った石森の仕事について、「なぜ彼が戦後初期の文部省で必要とされたのか」という観点から分析した。
3) 「満洲」の国語教育実践における『満洲補充読本』の位置	単著	2018年3月	日本植民地教育史研究会『植民地教育史研究年報』第20号、106-126頁。	戦前期の「満洲」で編纂された日本人児童向けの国語教科書『満洲補充読本』について、それが「満洲」の小学校の授業においてどの程度/どのように使用されたのかを明らかにした。
4) 『綴方への道』にみる石森延男の綴方教育観	単著	2018年6月	神戸大学教育学会『研究論叢』第24号、3-14頁。	1935年に上梓された『綴方への道』を手がかりに、石森の国語教育観の一端に迫った。
5) 第二次世界大戦前後における石森延男の作文綴方教育思想――二つの『綴方への道』を手がかりにして	単著	2018年9月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科『研究科紀要』第12巻第1号、11-20頁。	前掲「学術論文4）『綴方への道』にみる石森延男の綴方教育観」の続報として、①1940年に刊行された改訂版『綴方への道』の内容的特徴、とくに初版（1935年刊行）との異同の解明、②そこで唱導された石森の作文綴方教育思想が、戦前と戦後の国語教科書に与えた具体的影響の2点を検討した。
6) 石森延男著作目録	単著	2019年2月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科・神戸大学発達科学部教育科学論コース『教育科学論集』第22号、53-78頁。	石森の著作996タイトルを収録した目録を作成した。
7) 石森延男と第5期国定国語教科書――第二次世界大戦期における文部省への招聘理由と執筆教材	単著	2019年3月	全国大学国語教育学会『国語科教育』第85集、23-31頁。	石森が戦時下に文部省へと招聘された理由を明らかにしたとともに、帰国した石森が編纂した第5期国定国語教科書に収録された彼の執筆教材の内容的特質を分析した。
【学会発表】 1) 石森延男の国語教育理論の形成過程――『綴方への道』に着目して	単著	2015年8月	神戸大学教育学会2015年度大会	前掲「学術論文4）『綴方への道』にみる石森延男の綴方教育観」と同一内容のため、省略。

2) 石森延男編纂の国語教科書に関する研究―『満洲補充読本』にみる言語活動に着目して	単著	2016年10月	教育史学会第60回大会	国語教育の理論的深化の途上で見出された「言語活動」について、それを石森の仕事という視点から辿ったとき、「内地」での仕事以前に「満洲」における『満洲補充読本』の編纂過程において積極的に取り入れられていたことを明らかにした。そのことは、石森の戦中・戦後の仕事の基盤に、「満洲」での経験が位置づけることを例証するものであった。
3) 石森延男著『綴方への道』と第6期国定国語教科書における作文綴方教材	単著	2016年10月	第131回全国大学国語教育学会	前掲「学術論文5) 第二次世界大戦前後における石森延男の作文綴方教育思想―二つの『綴方への道』を手がかりにして―」と同一内容のため、省略。
4) 石森延男国語教科書編纂史	単著	2017年3月	日本植民地教育史研究会第20回研究大会	石森の国語教科書編纂の仕事について、全体像を整理しながら、研究の到達点と理論的課題を析出した。
5) 国語教育史上における石森延男の位置―「墨ぬり教科書」と「暫定教科書」に着目して	単著	2017年8月	神戸大学教育学会2017年度大会	石森の仕事に関する実証的検討の一環として、戦後教育改革期に作成された所謂「墨ぬり教科書」と「暫定教科書」の収録教材の分析を行った。
6) 石森延男が戦後初期の国語教育改革に果たした役割の再検討―北海道立文学館所蔵史料を手がかりに	単著	2017年10月	教育史学会第61回大会	『学習指導要領国語科編昭和二十二年度(試案)』(1947年)の作成過程における石森の役割について、北海道立文学館に所蔵された新発見史料を手がかりに考察した。
7) 第二次世界大戦下の国語教科書に関する研究―図書監修官の動態と役割をめぐって	単著	2018年5月	全国大学国語教育学会第134回大会	前掲「学術論文7) 石森延男と第5期国定国語教科書―第二次世界大戦前後における文部省への招聘理由と執筆教材」と同一内容のため、省略。
8) 戦後新教育の出発期における石森延男の役割―国語科学習指導要領の成立過程	単著	2018年6月	The World Education Fellowship	前掲「学会発表6) 石森延男が戦後初期の国語教育改革に果たした役割の再検討―北海道立文学館所蔵史料を手がかりに」の続報として、『学習指導要領国語科編昭和二十二年度(試案)』の作成過程における石森の役割について、とくに戦後初期の国語教科書編纂の仕事との関連に焦点化し考察した。
9) 『サクラ読本』の「満洲」教材成立史	単著	2018年7月	神戸大学教育学会2018年度大会	「サクラ読本」の通称で知られる第4期国定国語教科書に収録された「満洲」関連の教材をめぐり、新出史料を用いながらその成立過程を明らかにした。
10) 石森延男と第4期国定国語教科書(サクラ読本)	単著	2018年8月	日本教育学会第77回大会	石森と国定国語教科書の最初の接点である第4期教科書「サクラ読本」に関して、①石森がいかなる教材原文を寄稿したのか、②それが教材化の過程でどのように変化したのかを明らかにした。
11) 石森延男と『満洲補充読本』―磯田一雄の石森理解をめぐって	単著	2018年9月	教育史学会第62回大会	石森と『満洲補充読本』の関係について、磯田一雄の先行研究に学びながら、磯田の理論的課題を析出したうえで、より精緻に裏づけた。
【そのほか】				

1) 書評：菅原稔著 『戦後作文・綴り方 教育の史的展開』	単著	2017年6月	神戸大学教育学 会『研究論叢』 第23号、53-55	菅原稔氏の著作について書評を行っ た。
-------------------------------------	----	---------	----------------------------------	------------------------